

鍼灸臨床における治効要因の多元性 ～腰痛患者の語りの分析から～

伊東純一¹, 鈴木勝己², 小川貴司³, 荒木誠一⁴

1, 力ナ工整骨院 早稲田大学人間科学部

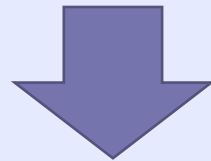
2, 早稲田大学人間科学学術院

3, 小川鍼灸整骨院 早稲田大学人間科学部

4, 帝京平成大学 地域医療学部

研究の目的

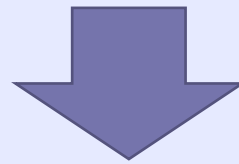
本研究は「臨床現場の患者—治療者から」というボトムアップ的視点により鍼の治効を探ろうとする質的研究である



本報告では腰痛患者の語りから
人文社会科学研究デザインにおける
「鍼の治効の多元性」を考察する

研究の背景1

昨今では鍼の治効に対するEBM確立のためにRCTによる検証が多くなっている。しかし、RCTの検証は臨床現場でみられる「**鍼の治効の全て**」を示すものではない

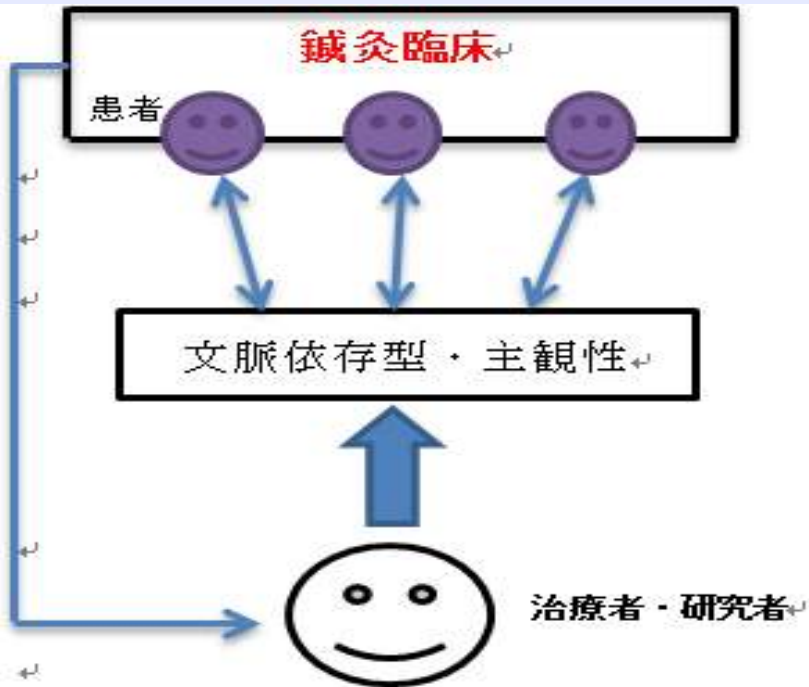


鍼灸臨床においては、多様な背景をもつ患者と治療者が鍼治療を通じて「**個別のリアリティー**」を構築している

研究の背景2

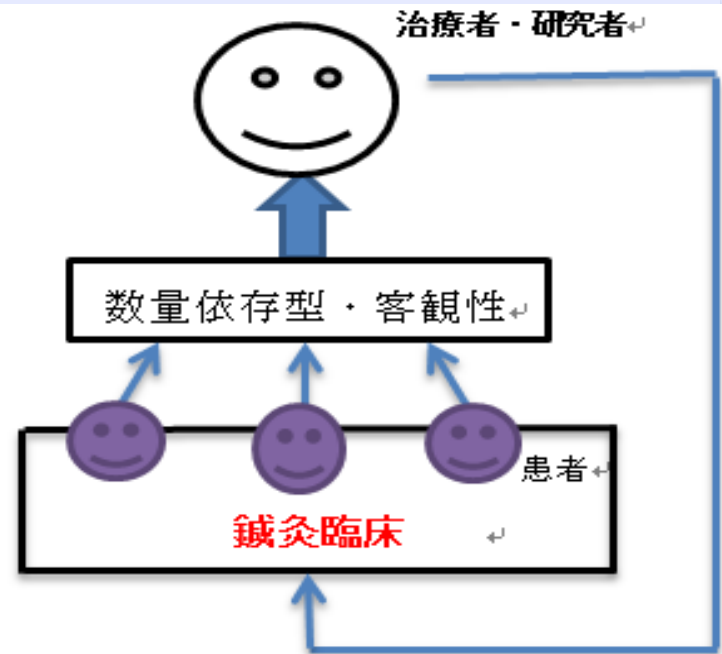
図表1

臨床現場の視点(質的)



ボトムアップ的

研究者の視点(量的)



トップダウン的

→ 還元されうる方向

研究の背景3

人文社会科学研究

現代医学と文化科学の

実践的協働の可能性

(池田光穂, 2007)



「病気に適応する」という文化的行動を進化させる

(医学的解釈)

現代医学も我々の文化的産物である

(人文社会科学的解釈)

語り分析の意義

患者の豊かな語りは、医学の専門用語ではまとめることができない (鈴木勝己, 2014)



鍼灸臨床の患者や治療者は関係性を基盤として相互的に言葉や態度に応答

個別的で多元的な「語り」は鍼灸の治効を探る手がかりとなる？

方法1

対象:Sさん 男性(73歳)

所見

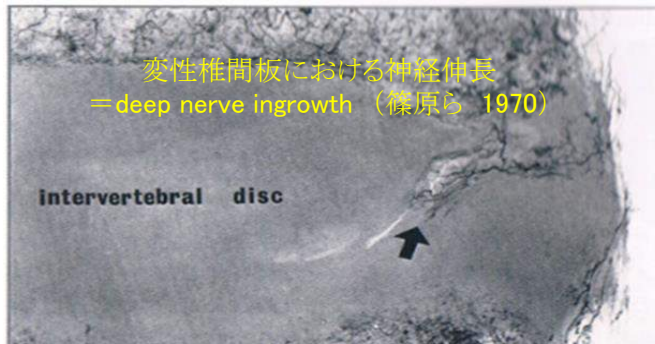
左L4-L5～関連痛を主訴

体幹前屈位40～50° 及び着座・起立動作により疼痛

Kempテスト(+) SLR(-)

近隣整形外科X-ray

L4-L5狭窄を認める非特異的腰痛

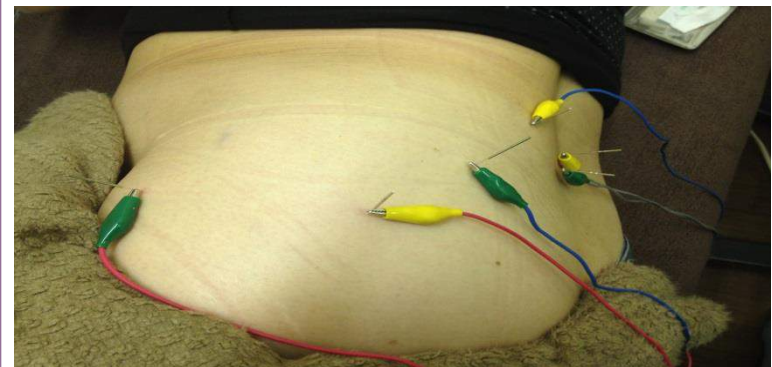


鍼治療の方法

場所:当院

期間:2013/12/2～13(全5回)

方法:左L4-L5～左上臀部神経領域へEAT10min,5Hz, 刺入深度約40mm,寸6・3番×6)



方法2

インタビューの方法

鍼治療中の筆者とSさんの対話
及び対話に基づく半構造化インタビューをICレコーダに記録

※ 調査承諾書により倫理的配慮



全15項目の質問

対話中の韓国ドラマとは？
鍼によって痛みが取れる、治るとい
う実感とは？
施術者に対する信頼とは？ …etc

分析の方法

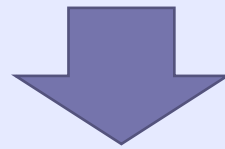
対話及びインタビューをトランス
クリプト化し、分析表を用いて語
りを時系列的に表記

	H25年12 月 3日 時 分から カナエ 鍼灸整骨院にて
話者	語り
T	韓国ドラマとかそういうの見てるんですか？Sさん？
S	うーん、まあ、歴史のね、
T	うん、うん、そういうの見てると何か…効きそ…

鍼の治効と関連性の認められる
語りから考察

結果1

12/3(第1回目)NRS(Numerical Rating Scale)10
12/6(第4回目)の鍼治療によりNRS1~2へ低下,
12/13(第5回目)で中断した



疼痛が緩和した背景に鍼治療を媒介とした
医学生理学的及び文化社会心理的機序による
「治効の多元性」が関わっている可能性が示唆

結果2

図表2

治効の多元性

①医学生理学

脊髄性痛覚抑制機序
フレアー現象
刺入深度と疼痛緩和

②期待理論

許凌(ホジュン)
治療の場への期待
治療者への期待
不安の対処

③イメージ 発現

鍼刺激による自身の
主観的な
イメージ発現

考察1 医学生理学的治効要因

Sさんの語り

「何か前と違う、あのう、軽くなるっていうんですか。
痛みが..その時よりもやっぱり、終わってまあ、..明る
る日ですよ..」

EAT10min
翌日に疼痛 ↓
刺入深度40mm



脊髄性痛覚抑制
フレアー現象
刺入深度と疼痛
抑制



治療者が解釈する鍼の
医学生理学的治効要因

考察2 期待理論による治効要因

Sさんの語り

「ドラマで(ハリを)打つ時がかなり重要なシーンで、
しかも失敗するっていうのはあんまり無くって」
「おたくに来る方々が、みんな親しく話している
しー…信頼されているっていうか…」



期待が高いと疼痛改善されやすい

ポジティブな鍼治療の印象と不安
の軽減

治療の場と治療者に対する期待
薬(鍼)と偽薬(期待)の相互作用
(Evans.F.J,1985)

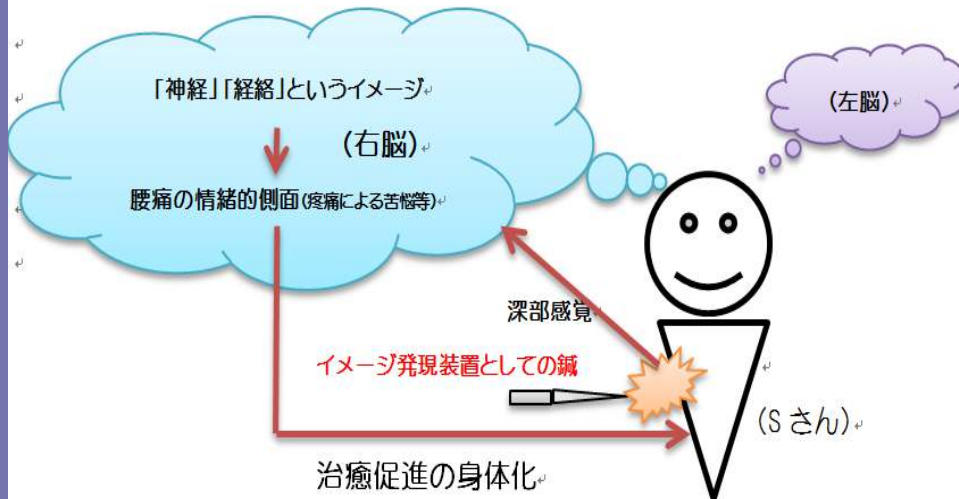
期待理論による
鍼の治効要因

考察3 イメージ発現による治効要因

Sさんの語り

「神経とか脈絡（経絡？）ですか？..信号っていつのか、感じるのはまた、それなりに効くのかなって思うんだけどね。」

イメージ療法の内的コントロールと鍼刺激によるイメージ発現



図表3

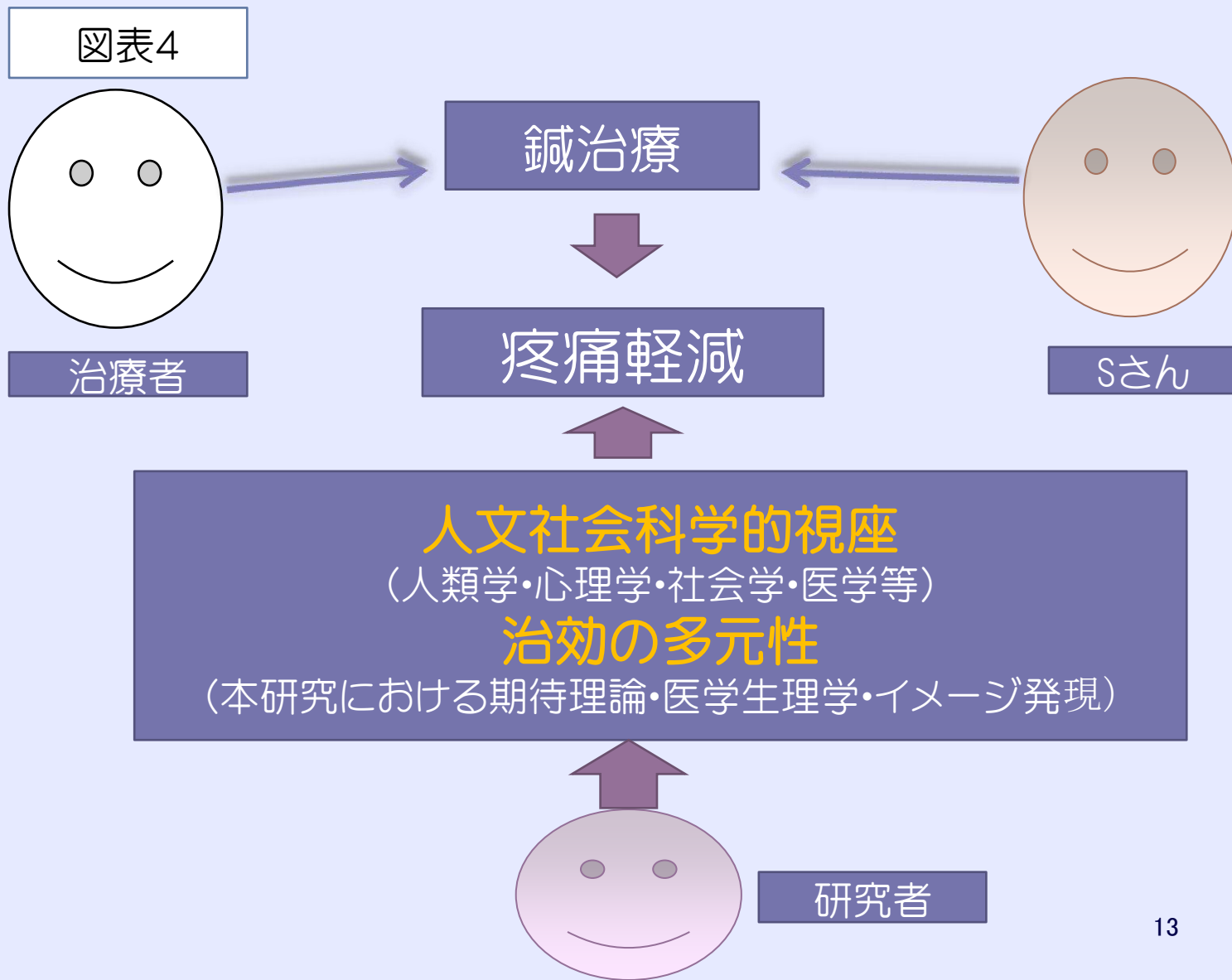
外的コントロールとして鍼

↓
イメージ発現

↓
疼痛軽減に関与の可能性

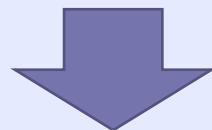
イメージ発現による
鍼の治効要因

考察4



結語1

RCTによって鍼治療そのものの有効性を抽出することは重要である。しかし、こうした検証結果に基づく鍼治療を施したとしても、必ずしも患者にとって良好な結果をもたらすとは限らない



なぜなら、臨床現場では必然的に「患者と治療者の関係性」が産出し、良くも悪くも鍼の治療に影響を及ぼすと考えられるからである

結語2 総括

鍼灸臨床に患者と治療者の関係性が介在する限り、その治効も個別に検証する必要がある。

これは鍼治療の妥当性が「それぞれの関係性の文脈的解釈」により意味づけされることを示唆している。

さらに、こうした研究の積み重ねが鍼灸の「多元的治効要因」という概念モデル形成に繋がる可能性がある。

参考文献

Kleinman.A:The Illness Narratives ; Suffering, Healing and The Human Condition.

Basic Books, Inc., 1988〔アーサー・クラインマン著, 江口重幸, 五木田伸, 上野豪志, (共訳): 病いの語り; 慢性の病いをめぐる臨床人類学, 誠信書房, pp307-324, pp336-341〕

Kleinman.A: Patients and Healers in the Context of Culture ; An Exploration of the Borderland Between Anthropology, Medicine, and psychiatry of California Press, 1980〔アーサー・クラインマン著, 大橋英寿, 遠山宜哉, 作道信介, 川村邦光(共訳): 臨床人類学; 文化の中の病者と治療者. 弘文堂、pp1-17, pp25-53, pp77-114, 1992〕

Evans,F,J(1985),Expectancy, therapeutic instructions ,and the placebo response, In L White, B .Tursky &G.E Schwartz(Eds.),Placebo : Theory, research, and Mechanisms(pp.215-228).New York: Guilford Press.〔期待、治療的教示、偽薬反応、ラトガース医科大学精神科、フレデリック・エヴァンス pp156-171, 1985〕

藤本幸子, 井上基浩, 他 腰痛に対する腰部への鍼の刺入深度の違いによる治療効果の相違, ランダム化比較試験, 全日本鍼灸学会雑誌, 第61巻3号, pp208-217, 2011

Howard Brody:THE PLACEBO RESPONSE How You Can Release The Body's Inner Pharmacy For Better Health, 2000〔プラシーボの治癒力 心がつくる体内万能薬, ハワード・ブローディー著 伊藤はるみ翻訳, 日本教文社 2004〕

池田光穂・奥野克巳共編:医療人類学のレッスン 病いをめぐる文化を探る. 学陽書房, p11, p26, p37, 2007

韓国ドラマ「ホジュン」公式ガイドブック (株)コリア・エンターテインメント2007,pp64-65

波平恵美子, 病いと死の文化 現代医療の人類学 朝日新聞社, pp212-217, 1990

宮城正行, 他 疼痛を惹起する運動器疾患モデルでの基礎的研究 2) 椎間板性腰痛千葉大学大学院医学研究院整形外科学講座、他ペインクリニックvol.34 pp14-22真興交易(株)医書出版部, 2013

大島恒, 鍼灸理論テキスト, 第8版pp252-255, 316-318, 2013

斎藤清二・岸本寛史著:ナラティブ・ベイスド・メディシンの実践, 金剛出版,p74, pp93-97, 2003

佐藤純一:文化現象としての癒し 民間医療の現在 メディカ出版, pp186-208, pp258-284, pp296-299, 2000